

平成26年度 第2回  
奈良市社会教育委員会議  
会議録

平成27年2月19日会議

平成26年度第2回奈良市社会教育委員会議会議録			
開催日時	平成27年 2月19日(木) 午前10時から午後11時45分 まで		
開催場所	奈良市教育センター 8階 中講座室8-2		
出席者	委員	大井委員、岡田龍委員、岡田善委員、奥田委員、粕谷委員、北畑委員、小北委員、高田委員、立石委員、峠委員、中井委員、中村委員、服部委員 【計13人出席】 (谷口委員、畑中委員は、欠席)	
	事務局	教育長、教育委員会事務局理事、教育総務部長、学校教育部長、教育総務部参事、生涯学習課長、生涯学習課課長補佐、生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開(傍聴人 0人)	担当課	教育総務部 生涯学習課
議題 又は 案件	1 各大会の参加報告 ①平成26年度近畿地区社会教育研究大会 ②第26回奈良県社会教育研究大会 ③第56回全国社会教育研究大会 ④第46回奈良県社会教育学校  2 小委員会での検討事項報告 ①社会教育目標について ②「奈良市生涯学習推進基本計画」について  3 その他		
決定又は 取り纏め 事項	1 「平成27年度奈良市教育目標」の社会教育目標の決定稿を確認  2 「平成27年度奈良市教育目標」を利用した社会教育の広報を決定  3 「奈良市生涯学習推進基本計画」の改訂に向けて、教育委員の方々との意見交換・情報共有の場を設けるために働きかけることを決定  4 「奈良市生涯学習推進基本計画」の改訂準備、教育委員の方々との意見交換準備のために、小委員会の発足を決定		

## 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

### 1 各大会の参加報告

- ・各参加者から、各大会について、参加報告書を基に説明。  
<特に意見等無し>

### 2 小委員会での検討事項報告

- 小北委員より、小委員会で検討した下記①、②について説明。

#### ①社会教育目標について

- ・「平成27年度奈良市教育目標」の社会教育目標の決定稿について、資料5-1～資料5-3を基に説明。
- ・「平成27年度奈良市教育目標」の社会教育目標の決定稿を利用して、簡易的なポスターを作成することを事務局に要請することを説明。  
<特に意見等無し>

#### ②「奈良市生涯学習推進基本計画」の改訂に向けて

- ・奈良市の教育行政に社会教育・生涯学習がどのように貢献できるか、相互理解、情報共有を図るために、教育委員の方々と意見交換の場を持つことを、事務局に提案したい旨、資料6に基づいて説明。  
<特に意見等無し>

- ②に関して、教育委員会との意見交換の場を持つことを事務局に提案することについて議決。

- 事務局から、意見交換会の実施方法について確認。

- 定例教育委員会の場とは別の場を設けてもらうこと、社会教育委員全員ではなく、小委員会のメンバーくらいの人数で臨席することを想定。親睦を深めることも含めて、情報共有や意見交換を行うことを意図している旨、会議長から説明。

- 教育委員会との意見交換会を目指すために、社会教育委員として各自が把握している奈良市の社会教育・生涯学習の現状や各自の経験談について、事前送付していた「アンケート調査票」をもとに報告し合い、社会教育委員会議全体で共有。

#### 【意見交換】

- 中村委員による意見・感想等

「小委員会で真剣に様々なことについて話し合わせ、教育委員会との意見交換会、ということまで問題を発展させていかれたことは、とても意義深いと思っている。」

「社会教育委員としての自分自身の役割が、よくわかっていなかったが、今の時点でできることは、何らかの提案に対して、自分の意見を述べるところに、留まるのではないかと思う。ただ、この会議での話し合いを進めていく中で、また何か別な形で自分のできることが見つかるかもしれないと思った。」

「普段関わっているガールスカウトの活動では、充実した活動を通して、若い女性たちが、十分に成長して自分自身の考えを持って活動できるよう育てる、ということが、一番の目標であるが、それを支えていく大人が同じように成長している。何か社会教育活動に参加していれば、人間として成長していく機会がとても大きいと思うため、社会教育というものは本当に重要だと感じている。」

「社会教育というのは、学校教育と同じように、何かを育てていくということで、生涯学習というのは、自発的なものではないのか、と思う。そのため、奈良市においても、その位置づけをもう少し整理した方がよいのではないかと思う。「生涯学習推進基本計画」という名前においても、これでいいのかな、と疑問に思った部分もある。学校教育については、教育委員会があり、そういった部署がたくさんあると思うが、社会教育というものについて、もう少し大きな括りのところが必要ではないか、と思う。」

#### ○粕谷委員による意見・感想等

「社会教育委員会議は、今後、もっとアクティブに活動していく必要があると考えるため、教育委員さんとの意見交換会を目指すことに賛成である。」

「学校園長会の代表として来ているが、奈良を誇れるような子どもを育てようと思うと、地域との連携は不可欠であるが、その連携をどのように推進していくのか、ということは、主には地域のコーディネーターの方と学校長の責任ではないか、と考えている。今後、地域教育課も巻き込んで、そうした地域との連携について、ビジョンのようなものを社会教育の中で考えていくことが大事だと思う」

「新しい生涯学習推進基本計画を作成する中で、社会教育の推進計画にならないように、見極めていくことが大事だと思う。知識基盤社会と言われる社会の中で、人々がどのようなことを求めている、行政の役割は何であるのか、ということを経済委員会はもちろん、首長部局とも相談しながら方向性を見定めていくための手助けを、我々ができたらいいのではないかな、と感じた。」

#### ○中井委員による意見・感想等

「今の校長先生方は、教育委員会だけでなく、地域の方にも向いて物事を進めていると思う。我々地域はできることは何でもやる。学校の先生、幼稚園の園長、先生は教育に専念してもらいたい。PTAなど様々な問題も起こっているが、それは我々地域でできる限り解決していきたい、と思っている。」

「我々の地域では、地域で成人式を行っている。市の成人式を終えて帰ってきて、午後から地域成人式というのをやっている。これが好評で、この地域成人式に参加した若い方が、地域で行う夏祭りで主導権を握って、櫓の上に立ってくれている。」

「地域と学校、そして教育委員会さんが一体になってやることが、これから課題になってくるのではないかと思う。」

○大井委員による意見・感想等

「私たちの地域は東部山間で、小学校までの距離が遠いため、子ども達の登下校の送り迎えを高齢者の方や地域の安全を守る方々が担っている。こうしたことの一つの目的は、子どもたちと様々な話をして、マナーなどを教えていくこと、もう一つには、世代間の交流がある。歩きながら子どもたちといろんなことを話す中で、子ども達に教えたり、教えてもらったり、いろんなことを引き出したり、という形でやっている。」

○服部委員による意見・感想等

「社会教育課には、社会教育主事がいて様々なことを考えてきていたが、今はとても少なくなっている。」

「社会教育と生涯学習は異なるものであると考えているが、県も市も生涯学習課としている。生涯学習課の中で社会教育を行っている、私は捉えているが、そのあたりを岡田龍樹委員はご専門だと思うので、教えていただきたい。」

○岡田龍樹委員による説明

「文部省から文部科学省へ、社会教育局から生涯学習政策局への変遷について、これを受けて奈良市においても社会教育が変遷してきた。」

「社会教育の中に生涯学習の視点が入り入れられ、学校と社会教育が連携する必要から、奈良市においては地域教育課が設置された。」

「奈良市生涯学習財団の中に、社会教育主事は多く採用されており、奈良市に社会教育主事が減ったとは一概に言えない。」

「学習を支援することが教育であり、社会教育的視点から、地域や大人、あるいは学校も含めた生涯学習活動を支援していくことが社会教育であり、奈良市の社会教育、つまり生涯学習を促進して支援していくためのビジョンというのは、どうあるべきか、ということが、この会議で問われている部分である。」

○中村委員による質問

「私たちはどうあればいいのでしょうか？」

○岡田龍樹委員による説明

「例えば、ガールスカウトは、子どもたちの学びの場を、大人が支援しており、つまり生涯学習活動でもあり、社会教育活動でもある。ガールスカウトで子どもたちの学習支援を行ったノウハウは、他の青少年活動の場で活かせる可能性がある社会教育のノウハウであるため、その経験などを教えていただきたい。」

「また、大人たちも社会教育活動をしなが、子どもたちの学習支援のために学

びあっている。その際の経験なども貴重なものである。」

「学校への支援、高齢者の学びへの支援など、生涯にわたった様々な学びをどのように支援していくかを社会教育で考えていくことが課題だと捉えており、その際、それぞれの活動の中で経験してきたことが必要になってくる。」

#### ○中井委員による意見・感想等

「我々民生児童委員は問題を抱えた子どもがいたら、その親を教育するということから課題解決に取り組みたいと考えてあちこちに行くが、行政のどこに相談すればよいかわからないことがある。高齢者のためには、包括支援センターがあるが、子どもに対してはわからない。」

「学校園では教育に専念してもらいたいと思って、地域で課題解決に取り組むものの、結局、学校園に負担をかけることになる。」

#### ○岡田龍樹委員による意見等

「戦前の社会教育は、人々の生活に関わることをすべてを社会教育の範疇として地域で活動していた。」

「昭和24年に社会教育法ができると、教育の分野に限定されてきて、もともと大きな括りだった社会教育から様々なところに分化した。しかし、地域で人びとの生活を支援するとなると、様々なことに関わってくる。そこでネットワーク型行政が必要となってくる。」

「社会教育を行っている生涯学習課こそが、行政の中のネットワークを紡いでいくことができる部署ではないかと考える。」

「生涯学習課のビジョンをどのように描けば、皆さんの活動が繋がっていくかを考えていきたい。そのために、教育委員の方々との話し合いの場を持ちたい。」

「話し合いを通じて、奈良市の社会教育・生涯学習支援のビジョンを煮詰めることができれば、教育委員会から社会教育委員会に諮問をいただいて、今度は答申という形で、正式な教育委員会に社会教育委員の代表が出るというところまで辿り着きたい。そのための話し合いをこれからさせていただきたい。」

#### ○高田委員による意見・感想等

「図書館の充実、活性化をしていただきたいので、図書館の現状について聞きたい。他の自治体で民間の事業者が参画していることについて。また、館長の交代が非常に多いことについて。」

#### ○事務局の回答

「奈良市としては、図書館の充実のために、当面の間は直営で運営する。ICTタグの導入作業を進める等、効率的な業務と運営体制の見直しにより市民サービスを高めるための検討を進めている。館長については、奈良市が目指す図書館像を具現化するための人的配置を、教育委員会事務局として人事当局に働きかけてはいる。」

○立石委員による意見・感想等

「青少年に関する社会教育は、学校教育の補完という方向に傾倒しがちであるが、学習支援の面と発達支援の面を持っており、社会教育としては、子どもたちの発達を支援する場所を学校以外で保障することが責務と考える。」

「指定管理により運営している公的な児童文化センター、他の事業で運営しているプレイパークが、子どもたちにとって、家や学校とは違う自分の姿を出せる、家や学校とは違う人間関係の中だからこそ出せる、といった場になっている。」

「行政職員の方が数年単位で替わっていくというあり方で、地域に根ざして動くことを特長とする社会教育を、どう保障するかということも課題である。欧州では、青少年の発達を支援する施設の専門職は、ネットワークを作りながら進めていく業務部署替え・地域替えということもなく、地域に根ざすことが認められている状況。」

○服部委員による意見・感想等

「南部公民館は職員もいてくれて、地域の教育機関として大きな役割を果たしている。しかし地域の人口が減少し、自主事業やグループの活動への参加者も減少している。人と人、地域を繋ぐ公民館を、まちづくりの拠点としていきたいと考えているが、なかなか難しい。」

○峠委員による意見・感想等

「高齢化が進んでいるはずなのに、私に関わっている万年青年クラブも、団体数・会員数が減少している。これはコミュニティの希薄化が原因ではないかと考えている。例えば、かつての宴席に比べると、現在の宴席では各自が思い思いに過ごしており、人と人との交流の仕方が非常に小さな狭いものになっている。今日の皆さんのお話しでも、社会教育・生涯学習の基本はコミュニティであると感じたが、学校教育においても、このコミュニティの大事さをしっかり伝えてほしいし、もちろん社会教育においてもしっかりやっていかなければならないと考える。」

- 会議長より、建設的な意見交換会を実現させるため、また、「生涯学習推進基本計画」の改訂に向けて内容を練っていくために、新たな小委員会の立上げが提案され、会議として承認。メンバーは、奥田会議長、岡田副会議長、小北副会議長、粕谷委員、立石委員。

3 その他

<特に意見等無し>

資 料	【資料1】平成26年度近畿地区社会教育研究大会参加報告書 【資料2】第26回奈良県社会教育研究大会参加報告書 【資料3】第56回全国社会教育研究大会参加報告書 【資料4】第46回奈良県社会教育学校参加報告書 【資料5-1】平成27年度社会教育目標について 【資料5-2】社会教育の目標 【資料5-3】社会教育における分野別施策目標 【資料6】「奈良市生涯学習推進基本計画」の改訂に向けて
--------	--